

ご挨拶

「人と企業、人と社会の新たなつながりで明日を創る」をパーパスとして定めSDGsの達成に貢献していきます。

富士通フロンテック・パーパス

当社は、1940年に金属洋食器などを製造する「株式会社金岩工作所」として設立以来、高度な技術・ものづくりをベースとした製品・サービスで金融・流通・産業・公共などのさまざまな分野でグローバルにお客様のビジネスの発展を支え続けています。

世の中に目を向けると、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルスは徐々に落ち着きを見せはじめましたが、一方でウクライナ危機や物価高騰など、新たな難題が発生し先行きの見えない混沌とした状況が続いています。

このようにあらゆる環境が目まぐるしく変化し、予測不可能なVUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）の時代、当社グループはFujitsu Wayの遵守、および、富士通フロンテック・パーパスを制定しました。「人と企業、人と社会の新たなつながりで明日を創る」をパーパスとして定め、新たな一歩を踏み出しました。

当社が長年大切にしてきたハードウェア・ソフトウェア・サービスの技術力とクオリティ、業務・業種ノウハウに基づいた現場力を当社の「DNA（不変の強み、価値）」とし、これをベースに「お客様最前線のDX企業」を目指します。人々が私たちの提供する「もの・コト」に触れることで、人と企業・人と社会の新たなつながりが生まれ、リアルとデジタルがつながり、これまではないサービスを楽しむ世界に変えていくことに「挑戦」し、その結果、すべてのステークホルダーの皆様へ期待以上の「価値を提供」し続けます。そして、国際社会の共通目標であるSDGsの達成に向けた取り組みを推進していきます。

グローバルな環境問題への取り組み

当社グループでは、GHGや廃棄物など環境にかかわる側面を評価し、環境に与える影響が著しいと判断したものを重点項目として特定し、その解決策として「富士通フロンテックグループ環境行動計画」を策定・実践することで、グローバルな環境問題への対応に努めています。

「第10期環境行動計画」（2021～2022年度）では、「気候変動への対応」、「資源循環の促進」および「独自設定テーマ」の3つに取り組んでいます。

「気候変動」においては、事業活動におけるGHG排出量を2013年度比で24%以上削減するとともに電力における再生可能エネルギー利用率を8%へ拡大。加えて、製品の使用時電力によるCO₂排出量を2013年度比で15%以上削減。

「資源循環」においては、新製品の資源効率を2019年度比で10%以上向上。

「独自設定テーマ」においては、廃棄物発生量を2012～2014年度平均比で27%以上削減、SDGs貢献ソリューションの開発・提供、および良き企業市民としての活動を指標に掲げ、これらを達成すべく活動を展開しています。

また、「FUJITSU Climate and Energy Vision」の中期目標「2030年までにGHG排出量を2013年比で71.4%削減」の達成に向けては、当社グループでは既存の省エネ対策に加え、2021年度から再生可能エネルギーの導入を国内外で本格的に開始しました。

一方、2022年4月に「プラスチック資源循環促進法」が施行されましたが、当社グループはプラごみ問題の解決に貢献するため、社内啓発の促進はもちろん、再資源化の徹底など、これまで以上に取り組みを強化していきます。



代表取締役社長 川上 博 彦